

## 【研究論文】

## 英語の強勢について（その10）

## On English Stress（10）

田 中 章  
Akira TANAKA

次は、(139a) のimáginative [← imáginé, imàginátió] を扱うが、派生は次のようになる。

(148) imáginative

Line 0	Project:L	x	x	x	(x	x	(x # Avoided
		L	L	L	H	H	
	Edge:LRL	x	(x	x	(x	x	
		L	L	L	H	H	
	ICC:L	vacuous					
	Head:L		x		x		
		x	(x	x	(x	x	
		L	L	L	H	H	
Line 1	SC	vacuous					
	Edge:LLL		(x		x		
		x	(x	x	(x	x	
		L	L	L	H	H	
	Head:L		x		x		
			(x		x		
		x	(x	x	(x	x	

		L	L	L	H	H
S			x			
			(x		x	
	x	(x	x	(x	x	
	L	L	L	L	H	
SD			x			
			(x			
	x	(x	x	x	x	
	L	L	L	L	H	
R			x			
			(x			
	x	(x	x	x	x	
	L	L	L	L	H	

[ə]

この派生では、語末から二番目と語末の音節が重音節なので、Project:Lが適用されるが、その際、回避制約（Avoid (x #)）が適用される。次に語頭から二番目の音節にアクセントが付与されているのでEdge:LRLが適用される。ICC:Lは空虚に適用される。次に、このようにして生じた2個の構成素の主要部を示すためにHead:Lが適用される。line 1では、まずSCが空虚に適用される。それから、line 0で生じた2個の主要部のうち、どちらが主強勢を担うかを示すために、Edge:LLLとHead:Lが適用される。次に語末から二番目の音節を短音にするためにSが適用される。最後に、この音節をあいまい母音にするためにSDとRが適用されて正しいアクセントが生成される。

次に、（その8）の注13でも述べたように、Kenyon & Knott (1953)<sup>4</sup>は、(139a) の語の中で *imáginative* についてのみ *imáginàtive* という発音もあげている。そこで、この後者の発音の派生を以下で示す。

(149) *imáginàtive*

Line 0	Project:L	x	x	x	(x	x	(x # Avoided
		L	L	L	H	H	
	Edge:LRL	x	(x	x	(x	x	

		L	L	L	H	H
	ICC:L	vacuous				
	Head:L		x		x	
		x	(x	x	(x	x
		L	L	L	H	H
Line 1	SC	vacuous				
	Edge:LLL		(x		x	
		x	(x	x	(x	x
		L	L	L	H	H
	Head:L		x			
			(x		x	
		x	(x	x	(x	x
		L	L	L	H	H

派生の説明は、(146) と全く同じになり、S、SD、Rが適用されないだけである。

次は、(139a) のassóciative [← assóciàte, assóciátion] であるが、派生は次のようになる。

(150) assóciative

Line 0	Project:L	x	(x	x	(x	x	(x # Avoided
		L	H	L	H	H	
	Edge:LRL	vacuous					
	ICC:L	vacuous					
	Head:L		x		x		
		x	(x	x	(x	x	
		L	H	L	H	H	

Line 1	SC	vacuous				
	Edge:LLL		(x		x	
		x	(x	x	(x	x
		L	H	L	H	H
	Head:L		x			
			(x		x	
		x	(x	x	(x	x
		L	H	L	H	H
	S		x			
			(x		x	
		x	(x	x	(x	x
		L	H	L	L	H
	SD		x			
			(x			
		x	(x	x	x	x
		L	H	L	L	H
	R		x			
			(x			
		x	(x	x	x	x
		L	H	L	L	H

[ə]

この派生では、語頭から二番目の音節と、語末から二番目と語末の音節が重音節なので、Project:Lが適用されるが、その際、回避制約 (Avoid (x #)) が適用される。次にEdge:LRLは空虚に適用される。さらにICC:Lも空虚に適用される。次に、このようにして生じた2個の構成素の主要部を示すためにHead:Lが適用される。line 1では、まずSCが空虚に適用される。それから、line 0で生じた2個の主要部のうち、どちらが主強勢を担うかを示すために、Edge:LLLとHead:Lが適用される。次に語末から二番目の音節を短音にするためにSが適用される。最後に、この音節を曖昧母音にするためにSDとRが適用されて正しいアクセントが生成される。

次は、(139a) のcommémorativeの派生を扱うが、imaginativeの派生 (144) と全く同じになるので、

省略する。

次は、(139b) のinnovative [← innovàte, innovátion] であるが、派生は次のようになる。

(151) innovàtive

Line 0	Project:L	x	x	(x	x	(x # Avoided
		L	H	H	H	(x ( Avoided
	Edge:LLL	(x	x	(x	x	
		L	H	H	H	
	ICC:L	vacuous				
	Head:L	x		x		
		(x	x	(x	x	
		L	H	H	H	
Line 1	SC	vacuous				
	Edge:LLL	(x		x		
		(x	x	(x	x	
		L	H	H	H	
	Head:L	x		x		
		(x		x		
		(x	x	(x	x	
		L	H	H	H	
	SOSW	x		x		
		(x		x		
		(x	x	(x	x	
		L	L	H	H	
	R	x		x		
		(x		x		

(x	x	(x	x
L	L	H	H

[ə]

この派生では、語頭の音節を除き、すべて重音節なので、Project:Lが適用されるが、その際、二つの回避制約 (Avoid (x # , Avoid (x () が適用される。次にEdge:LLLが適用される。さらにICC:Lは空虚に適用される。次に、このようにして生じた2個の構成素の主要部を示すためにHead:Lが適用される。line 1では、まずSCが空虚に適用される。それから、line 0で生じた2個の主要部のうち、どちらが主強勢を担うかを示すために、Edge:LLLとHead:Lが適用される。次に語頭から二番目の音節を短音にするためにSOSWが適用される。最後に、この音節をあいまい母音にするためにRが適用されて正しいアクセントが生成される。

次に (139b) のqualitative [←quality] を扱うが、派生は次のようになる。

(152) qualitative

Line 0	Project:L	x	x	(x	x	(x # Avoided
		L	L	H	H	
	Edge:LLL	(x	x	(x	x	
		L	L	H	H	
	ICC:L	vacuous				
	Head:L	x		x		
		(x	x	(x	x	
		L	L	H	H	
Line 1	SC	vacuous				
	Edge:LLL	(x		x		
		(x	x	(x	x	
		L	L	H	H	
	Head:L	x				
		(x		x		

(x	x	(x	x
L	L	H	H

この派生では、語末の音節と、語末から二番目の音節が重音節なので、Project:Lが適用されるが、その際、回避制約 (Avoid (x #)) が適用される。次にEdge:LLLが適用される。さらにICC:Lは空虚に適用される。次に、このようにして生じた2個の構成素の主要部を示すためにHead:Lが適用される。line 1では、まずSCが空虚に適用される。それから、line 0で生じた2個の主要部のうち、どちらが主強勢を担うかを示すために、Edge:LLLとHead:Lが適用されて正しいアクセントが生成される。

次は (139b) の *législative* [←*législâtes*, *lègislation*] であるが、派生は次のようになる。

(153) *législative*

Line 0	Project:L	x	x	(x	x	(x # Avoided
		L	H	H	H	(x ( Avoided
	Edge:LLL	(x	x	(x	x	
		L	H	H	H	
	ICC:L	vacuous				
	Head:L	x		x		
		(x	x	(x	x	
		L	H	H	H	
Line 1	SC	vacuous				
	Edge:LLL	(x		x		
		(x	x	(x	x	
		L	H	H	H	
	Head:L	x		x		
		(x		x		
		(x	x	(x	x	
		L	H	H	H	

この派生では、語頭の音節を除き、すべて重音節なので、Project:Lが適用されるが、その際、二つの回避制約（Avoid (x #, Avoid (x () が適用される。次にEdge:LLLが適用される。さらにICC:Lは空虚に適用される。次に、このようにして生じた2個の構成素の主要部を示すためにHead:Lが適用される。line 1では、まずSCが空虚に適用される。それから、line 0で生じた2個の主要部のうち、どちらが主強勢を担うかを示すために、Edge:LLLとHead:Lが適用されて正しいアクセントが生成される。

次は (139b) のauthóritative [←authórité] を扱うが、派生は次のようになる。

(154) authóritative

Line 0	Project:L	x	x	x	(x	x	(x # Avoided
		L	L	L	H	H	
	Edge:LLL	(x	x	x	(x	x	
		L	L	L	H	H	
	ICC:L	(x	(x	x	(x	x	Avoid (x ( OR
		L	L	L	H	H	
	Head:L	x	x		x		
		(x	(x	x	(x	x	
		L	L	L	H	H	
Line 1	SC	vacuous					
	Edge:LRL	x	(x		x		
		(x	(x	x	(x	x	
		L	L	L	H	H	
	Head:L		x				
		x	(x		x		
		(x	(x	x	(x	x	
		L	L	L	H	H	
	SD		x				



	(x		x	
x	(x	x	(x	x
L	L	L	H	H

この派生では、語末の音節と、語末から二番目の音節が重音節なので、Project:Lが適用されるが、その際、回避制約 (Avoid (x #)) が適用される。次にEdge:LLLが適用される。さらにICC:Lが適用される。その際、回避制約 (Avoid (x ( )) は無視される (overridden)。次に、このようにして生じた3個の構成素の主要部を示すためにHead:Lが適用される。line 1では、まずSCが空虚に適用される。それから、line 0で生じた3個の主要部のうち、どれが主強勢を担うかを示すために、Edge:LRLとHead:Lが適用される。最後にSDが適用されて正しいアクセントが生成される。

次は (139c) の *derivative* [←*deríve*, *dérivátion*] と *provocative* [←*provóke*] であるが、派生は次のようになる。

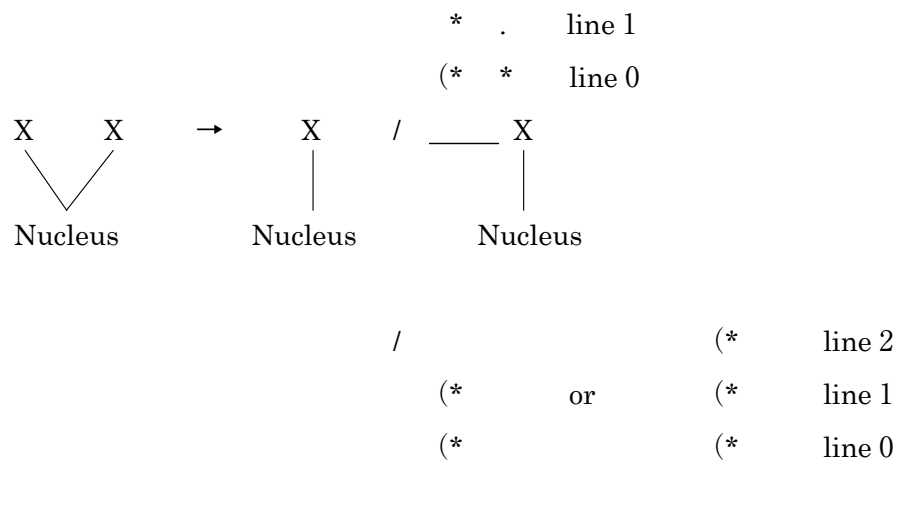
(155) *derivative*, *provocative*

Line 0	Project:L	x	(x	(x	x	(x # Avoided
		L	H	H	H	Avoid (x ( OR
	Edge:LRL	vacuous				
	ICC:L	vacuous				
	Head:L		x	x		
		x	(x	(x	x	
		L	H	H	H	
Line 1	SC	vacuous				
	Edge:LRL		(x	x		
		x	(x	(x	x	
		L	H	H	H	
	Head:L		x			
			(x	x		
		x	(x	(x	x	

L        H        H        H

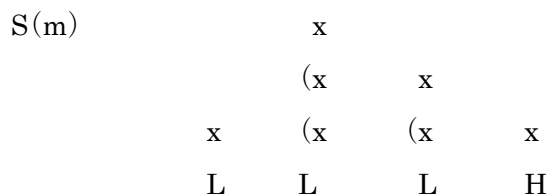
ここで、派生の途中であるが、この派生では、語頭の音節以外すべて重音節であるのでProject:Lが適用されるが、その際、回避制約 (Avoid (x #)) が適用されるが、回避制約 (Avoid (x ( )) は無視される (overridden)。次にEdge:LRLは空虚に適用される。さらにICC:Lも空虚に適用される。次に、このようにして生じた2個の構成素の主要部を示すためにHead:Lが適用される。line 1では、まずSCが空虚に適用される。それから、line 0で生じた2個の主要部のうち、どれが主強勢を担うかを示すために、Edge:LRLとHead:Lが適用される。次に、語頭から二番目の重音節を軽音節にするためにSが適用されるのであるが、単音にされるべき音節は主強勢をもっているから、今までのS((その7) 注10参照) は適用できない。そこで、Sをさらに次のように修正する必要がある。

(156) *Shortening* [= S] (modified)



念のために付け加えるが、この単音化の最初の環境は、2項的構成素の主要部の音節を単音にするためのものであり、二番目の環境は1項的 (unitary) 構成素の主要部を単音にするためのものであり、最後の環境は主強勢をもつ音節を単音にするためのものである。

この単音化が語頭から二番目の音節と語末から二番目の音節に適用されると次のようになる。



さらに、SD、Rが適用されて正しいアクセントが生成される。

SD		x		
		(x		
	x	(x	x	x
	L	L	L	H
R		x		
		(x		
	x	(x	x	x
	L	L	L	H
			[ə]	

次は (139c) の exclamative [ ← exclám, èxclamátion]、declarative [decláre, dèclarátion]、  
 alternative [ ← álteer, àlterátion]、informative [ ← infórm, ìnformátion]、conservative [ ←  
 consérve, cònservátion] を扱うが、派生はすべて次のようになる。

(157) exclamative, declarative, alternative, informative, conservative

Line 0	Project:L	(x	(x	(x	x	(x # Avoided
		H	H	H	H	Avoid (x( OR (twice)
	Edge:LLL	vacuous				
	ICC:L	vacuous				
	Head:L	x	x	x		
		(x	(x	(x	x	
		H	H	H	H	
Line 1	SC	vacuous				
	Edge:LRL	x	(x	x		
		(x	(x	(x	x	
		H	H	H	H	

Head:L		x		
	x	(x	x	
	(x	(x	(x	x
	H	H	H	H
S(m)		x		
	x	(x	x	
	(x	(x	(x	x
	H	L	L	H
SD		x		
		(x		
	x	(x	x	x
	H	L	L	H
			[ə]	

この派生では、すべての音節が重音節であるのでProject:Lが適用されるが、その際、回避制約(Avoid (x #) が適用され、さらに、回避制約(Avoid (x () は二度無視される(overridden)。Edge:LLLとICC:Lは空虚に適用される。次に、このようにして生じた3個の構成素の主要部を示すためにHead:Lが適用される。line 1では、まずSCが空虚に適用される。それから、line 0で生じた3個の主要部のうち、どれが主強勢を担うかを示すために、Edge:LRLとHead:Lが適用される。それから、語頭から二番目の音節と語末から二番目の音節を軽音節にするために、S (m) が二度適用され、最後にSDが適用されて正しいアクセントが生成される。

---

## 参考文献 (追加)

- (その1) 新潟経営大学紀要 第14号 2008年3月 37頁～53頁
- (その2) 新潟経営大学紀要 第15号 2009年3月 15頁～29頁
- (その3) 新潟経営大学紀要 第16号 2010年3月 13頁～25頁
- (その4) 新潟経営大学紀要 第17号 2011年3月 9頁～21頁
- (その5) 新潟経営大学紀要 第18号 2012年3月 1頁～15頁
- (その6) 新潟経営大学紀要 第20号 2014年3月 3頁～16頁
- (その7) 新潟経営大学紀要 第21号 2015年3月 1頁～14頁
- (その8) 新潟経営大学紀要 第22号 2016年3月 13頁～25頁
- (その9) 新潟経営大学紀要 第23号 2017年3月 1頁～13頁